

令和4年度普及活動実績集

だから好きです がんばる甲賀の農業 2022



滋賀県甲賀農業農村振興事務所農産普及課
甲賀農業普及指導センター

ユーカリの出荷前研修会

ナシの栽培指導

オーガニック米ほ場での
乗用除草機による除草指導

第74回関西茶品評会への
出品茶の製造指導

イチゴ新規栽培者への
技術指導

複式簿記の習得を目指した
集合研修

はじめに

農業を取り巻く情勢は、人口減少・少子高齢化の一層の進行や地球温暖化に伴う異常気象や災害の発生、ICTの技術革新の進展など大きく変化しており、力強い農林水産業の確立と基盤整備が求められております。また、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況に加え、一般のウクライナ情勢に伴う燃油価格や農業生産資材の物価の高騰等にも、非常に大きな影響を受けているところです。

このような国内外の情勢に対応すべく、本県では、昨年10月に「滋賀県農業・水産業基本計画」を策定し、2030年の農業・水産業が目指す姿を描き、取組を進めております。『農業・水産業と関わる人のすそ野を拡大する』という共通視点から、担い手の確保・育成、経営体質の強化、農林水産物のブランド力向上など、本県の特性を活かした地域農業の持続的発展に向けて施策を展開しています。

このような背景を踏まえ、地域農業の持続的な振興を図るため、さらなる農業生産の維持拡大や農業所得の安定確保とともに農業・農村の活性化に向けて普及指導活動に取り組みました。

普及指導活動の実施にあたっては、『担い手の育成と経営力の強化』、『産地の育成と販売力の強化』、『持続可能で魅力ある農業・農村の振興』を3本柱に、令和3年度に策定した「普及指導基本計画（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、各普及指導員が対象や方法、目標等を明示した年度別計画を作成し、その目標達成に向けて日々の活動を展開しています。

本書は、令和4年度に取り組んだ普及指導活動について、そのねらい、活動内容およびその成果を課題別に取りまとめたものです。普及指導員の活動の状況をご承知いただき、今後の地域農業の振興を図るうえでの参考にしていただければ幸いです。

最後に、活動にご協力いただきました農業者や関係機関・団体の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、甲賀地域の農業振興のため、今後とも普及指導活動に対しましてご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和5年3月

甲賀農業農村振興事務所 農産普及課
課長 河村久紀

目 次

1. 令和4年度普及活動の概要	・・・ 1
2. 甲賀のスマート農業の取組について	・・・ 3
3. 甲賀のみどりの農業システム戦略に関する取組について	・・・ 4
4. 普及活動成果事例	
(1) 担い手の育成と経営力の強化	
6次産業化部門の充実による経営の安定に向けて	・・・ 5
複合品目として加工用タマネギに取組む農家の収量向上による産地の振興	・・・ 6
新規就農者の経営安定に向けた支援	・・・ 7
(2) 産地の育成と販売力の強化	
水稻の品種転換や栽培技術支援による品質の向上	・・・ 9
抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と収量の向上	・・・ 10
枝物（ユーカーリ）産地の育成	・・・ 11
ぶどうの産地形成にかかる個選共販体制の整備と出荷規格に応じた生産の実践	・・・ 12
甲賀地域のなし産地の育成	・・・ 13
イチゴ新規栽培者の販路確保と産地の育成	・・・ 14
土山茶の新ブランド「土山一晚ほうじ」の育成支援	・・・ 15
コロナ禍における第74回関西茶品評会への出品支援	・・・ 16
オーガニック米の収量向上	・・・ 17
(3) 持続可能で魅力ある農業・農村の振興	
障がい者の就業機会の拡大のための職業指導員のなし栽培技術の習得	・・・ 18
5. 表彰事業受賞の概要	・・・ 19
6. 参考資料	
(1) 令和4年度グリーンカルチャーこうか	・・・ 26
(2) 令和4年度普及現地情報一覧	・・・ 30

令和4年度普及活動の概要

令和3年10月に「滋賀県農業・水産業基本計画」の策定および、同基本計画を先導する形で、令和3年3月に「滋賀県協同農業普及事業の実施に関する方針」が改訂されています。

これらを受けて、甲賀地域の現状や将来予測を踏まえた担い手の構造と生産状況の将来像を描く「甲賀地域普及指導基本計画(令和3～7年度)」を策定しています。

本年度は、本計画の2年目として普及活動に取り組みました。重要課題については個別計画(19計画うち13計画が新規計画)を作成し、個々の計画や地域重点プロジェクト活動の計画的な推進と目標達成を目指し、普及活動を展開しました。

1. 「担い手の育成と競争力の強化」に関する支援

(1) スマート農業等の革新技術の導入などによる経営発展に向けた取組への支援

先進的な農業の経営体に対して、「先進的農業者等革新支援事業」等を活用し状況把握に努めるとともに個別支援活動を通じて経営改善に向けた技術・経営指導を行いました。また、6次産業化に取り組む集落法人や個別経営体に対して、課題に応じた専門家である6次産業化プランナーと連携して計画の実現に向けて支援しました。

今年度は、6次産業化に取り組む大規模経営体に対して、6次産業化部門の更なる経営発展を目指すため発展戦略会議の開催とともに、新メニュー、新商品、新品目の開発検討に関して支援しました。

また、茶産地で経営安定をはかる専門的生産者の技術的な支援を重点的に実施し、経営の安定化を促進しました。

(2) 稲麦大豆や飼料作物、露地野菜など土地利用型作物による水田作経営の強化支援

水稻・麦・大豆の収益性向上や、飼料作物、露地野菜などの導入を推進し水田作経営の強化を図りました。

特に、加工用タマネギによる複合経営に取り組む経営体に対して、本年産のタマネギ栽培では、病害虫・雑草防除の薬剤選定や防除適期の判定など、次年産のタマネギ栽培では、早期の排水対策の実践や定植適期の拡大につながる早植え栽培の導入に対する支援を行いました。

(3) 新規就農者の定着に向けた支援

新規就農相談は17人・延べ26回行い、内1名が滋賀県農業大学校就農科への就学を希望され、令和4年度に1名、令和5年度に1名が就農を目指されることとなりました(令和4年11月15日現在)。

また、就農5年目までの認定新規就農者等(青年等就農資金等の活用者、農業大学校就農科修了生等)13名に対して、農場の巡回、相談活動や簿記研修を行い、栽培技術や経営指導を行いました。なかでも、就農直後の3名については、重点的に指導を行い経営の早期安定を図りました。

2. 「産地の育成と販売力の強化」に関する支援

(1) 需要に対応した米麦大豆の産地強化に向けた支援

水稻は、異常気象に即応した細やかな栽培管理の実施に向けての技術支援を行い、収量・品質の安定化を図るとともに、中生品種の「きぬむすめ」などの高温耐性品種の作付を推進しました。

また、麦・大豆については、担い手や集落営農組織を中心に資料提供や現地指導を行い、排水対策の徹底や適期作業の実践を支援しました。

(2) 野菜、果樹、花き、茶の多様な産地の育成支援

野菜は、重点品目であるキャベツ、タマネギ、「忍葱(しのぶねぎ)」など地域野菜ブランドである忍シリーズについて面積拡大や収量向上に対する支援を行いました。特に、抑制キュウリ栽培農家に対しては、夏のハウスの昇温対策としてICTバルブを活用した散水

技術の普及により収量の向上を図りました。イチゴでは、既存農家の栽培が盛んで、一部の直売所では供給が飽和する恐れがあることから、新規就農者を中心に量販店への出荷を視野においた栽培を推進しました。

果樹では、新たな品目（ぶどう、なし）の産地化を図るため、新規栽培者の確保と育成を進めました。早期成園化軽労技術の導入や技術研修会の開催、個別相談を実施することにより、令和4年度までにぶどうでは20戸（11,124㎡）、なしでは13戸（7,668㎡）まで栽培が拡大しました。

また、産地の安定的な継続発展を目指して甲賀地域ぶどう栽培研究会およびなし栽培研究会に対して栽培技術研修や、安定販売のために農協直売所や量販店など複数の出荷先の確保と共販体制の確立に向けた話し合いを支援しました。

花きでは、短茎小ギク、加工用中輪ギクの生産拡大のほか、リンドウ、枝物などの新規作付けの推進を図りました。特に、枝物のひとつであるユーカリについては産地化を目指して、地域にあった品種の選定や市場との出荷規格等調整を図りながら、研修会や現地説明会を開催し新規栽培者の育成確保と技術支援を行いました。

茶については、特に今年度は、関西茶品評会が甲賀市にて開催されることから、出品茶の出品を促進したところ、総数46点の出品がありました。出品の60%が入賞し、内2点が1等1席（農林水産大臣賞）を受賞しました。

また、土山茶「土山一晩ほうじ」をブランディングし、PR効果と相まって土山茶のブランド力強化につながりました。さらに、朝宮茶のブランド振興策の検討に向けた取組を支援しました。

(3) 環境こだわり農産物の生産拡大や、GAPの取組等安全安心な農産物生産への支援

環境こだわり農産物の生産に取組む農業者に対して技術支援を行いました。特に、水稻についてはJAこうか特別栽培米部会の活動支援を通じて環境こだわり農産物の生産拡大を図るとともに、オーガニック米生産者に対しては低単収の原因究明と改善策提案を行い収量向上に対する取組を継続して支援しました。

(4) 資源循環型農業の定着に向けた耕畜連携等の取組への支援

良質なサイレージ生産を行うため、耕種農家、畜産農家、コントラクター組織に対して、播種時期や品種の選定および耕畜連携の取組内での連絡体制の整備等、耕畜連携組織全体の生産・利用体制の再整備に関する支援を行いました。

3. 「持続可能で魅力ある農業・農村の振興」に関する支援

(1) 地域農業を支える集落営農組織の維持発展に向けた支援

複数の集落営農法人による集落間連携の開始に向けた意識の醸成を促進したところ、地域や組織が抱える課題について掘り下げられ、新たに連携可能な取組が抽出できました。

土地持ち非農家の関心が低下しているなどの中山間的な課題を有する集落や担い手に対して獣害対策や農業基盤の強化に向けた啓発を支援しました。

(2) 野生獣による農作物被害軽減に向けた集落ぐるみの取組への支援

管内の獣害による農作物被害は、令和3年度の被害面積は約15ha、被害額は約1,010万円とピーク時の1割以下にまで大きく減少しています。より一層の被害防止を進めるため、獣害被害集落を対象に集落単位での被害防止計画の作成や人材育成を支援し、住民主体による獣害対策の取組に重点をおいた普及活動を行いました。

本年度は、集落獣害環境点検を新たに1集落で実施しました。

(3) 農業排水対策に関する農業者等の取組への支援

農業排水対策では、情報紙による浅水代かきや止水等の啓発に加え、代かき・田植え時期に啓発パトロールや農業排水調査を延べ14日間実施しました。

また、農業系マイクロプラスチックの河川への流出防止のための広報啓発活動や、肥料殻流出防止対策の検討のための新肥料の実証展示ほを設置し環境負荷軽減に向けた取組を支援しました。

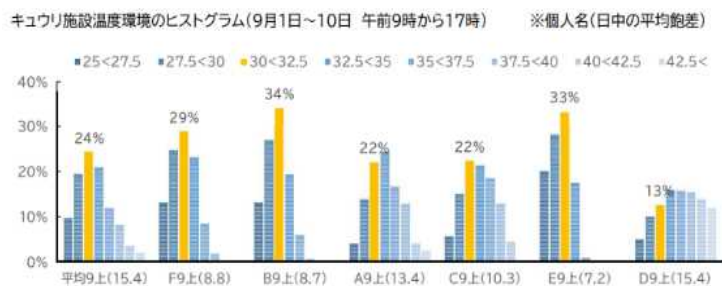
(4) 地域資源を生かした魅力ある地域農業の振興に向けた支援

今年度から新たに農福連携に取組む就労支援施設に対して、なし栽培を支援しました。

甲賀のスマート農業の取組について

【キュウリの昇温対策】

7月下旬から8月上旬に定植されるキュウリの昇温対策として、ICTバルブの設置と、温湿度ロガーによる栽培管理の見える化を行っています。栽培環境の改善と併せて、実際の温度管理に基づいた意見交換を行うことで、生産者の管理技術の高位平準化を目指しています（詳細はP10に記載）。



研修会資料の一例



ICTバルブ設置ハウス

【ミスト散布によるいちじくの高温障害対策】



ミスト散布時のハウス内風景

近年、管内のいちじくハウス栽培では、夏季の高温による葉焼けや高温障害果の発生が問題になっています。

そこで、それらの発生防止のために、ハウス内温度によって自動散水するミスト装置を試験的に設置しました。ミスト装置の昇温抑制効果として、2~3℃の昇温抑制が確認されました。それに伴い、葉焼けや高温障害果の発生程度が抑えられました。

【自動給水栓設置による水稻の水管理の省力化】

中山間地域での担い手の課題のひとつにはほ場の分散があり、農場間の移動に多大な時間を要しています。特に、水稻移植後の水管理は、他ほ場の移植作業と重なり、水管理が不十分といった課題がみられます。

そこで、シンプルな水位センサーを活用する自動給水栓を信楽町で試験的に設置したところ、農業者の実感として、「農道から見下ろすだけで水位や止水の状況が目視で確認できて効果的であった。」「獣害柵の開閉を行わず、取水口までの歩行時間が省けた。」といった感想が寄せられました。



自動給水栓の設置風景

製品：農匠自動給水機

甲賀のみどりの農業システム戦略に関する取組について

【オーガニック米の取組】

農事組合法人 S は、平成 23 年から有機栽培に取組み、平成 28 年には有機 JAS 認証を取得しています。平成 28～令和 3 年度まで 114a の有機栽培に取組まれ、今年度は新たに 69a の面積拡大をしています。

当初、慣れない栽培で低収となっていました。原因究明と改善策の実施に向けての支援を行った結果、10a あたり 300 kg 以上の収量を確保されました。引き続き、地域モデルとして支援を行っていきます。



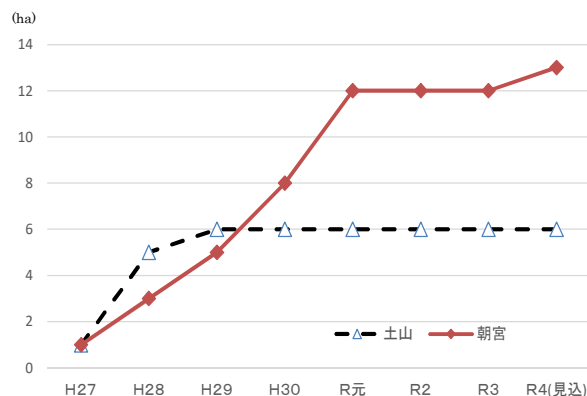
オーガニック米のほ場

【オーガニック茶の取組】

甲賀地域では、オーガニック茶の需要拡大の動きを受けて、平成 28 年ごろからオーガニック茶の生産に取組む農家が増加しています。

そこで、オーガニック茶の課題解決や今後の振興策を検討するため、実証ほの設置、成分等の分析、研究会や求評会の開催等を支援してきました。

今後も研究会などでオーガニック茶の品質向上に努め、地域のブランドとして位置付けられるよう支援していきます。



オーガニック茶取組面積の年次推移

【耕畜連携と堆肥循環】

中山間地の湿田が多い甲賀地域では、麦、大豆による生産調整が不向きであることから、安価な自給飼料を求める畜産農家の意向も併せて、コントラクターの育成や耕畜連携の体制づくりを行い、平成 20 年より堆肥を利用した WCS の生産を進めています。

令和 4 年の取組面積は稲 WCS が 45ha、トウモロコシ WCS が 28ha となり、堆肥循環の取組については、8 戸の農家で 29ha 取組まれています。

今後も耕畜連携や堆肥循環の取組がさらに拡大できるよう支援していきます。



稲 WCS 収穫の様子

6 次産業化部門の充実による経営の安定に向けて

対象者 水口町 (有)R ファーム

【普及活動のねらい】

R ファームは、水田 116ha で水稲、野菜、花、果樹等 50 品目以上の農作物の栽培、作業受託および加工品生産とともに、直売所等を経営する県下有数のメガファームです。今後の経営発展のためには、6 次産業化部門を充実させることが重要であるとの思いから、平成 30 年 7 月には直売所を移転するとともに新たに農家レストランを整備されました。



R ファーム社員と農家レストラン

昨年までの指導の結果、6 次産業化部門の長期的な発展戦略（以下「発展戦略」）がないことや、タマネギドレッシングに次ぐヒット商品がないなどの課題が残りました。そのため、これらの課題の解決を図

るべく、6 次産業化戦略会議（以下「戦略会議」）を通じて発展戦略を検討するとともに、今後生産量増大が見込まれる高糖度トマトの加工品開発等に取り組みました。

【普及活動の内容】

発展戦略の検討

6 次産業化部門の課題を整理するため、生産部門と 6 次産業化部門の責任者と関係機関により、戦略会議を開催しました。今年度 2 回開催した戦略会議では、今後の新商品の加工品開発計画、プランナーの招へい時期、残された課題の整理等を検討できました。

新商品の開発

今までの戦略会議の検討結果に基づき、高糖度トマトの加工品や、キッチンカーでの移動販売を想定した野外販売用の新加工品の開発を支援しました。現在までのところ、3 つの加工品が完成し、残された課題として、高糖度トマト加工品がもう一つ必要であることから、6 次産業化プランナーを招へいして、開発コンセプト、試作品の開発や販売戦略等の検討を進めています。

【普及活動の成果】

発展戦略の検討では、戦略会議で残された課題を検討した結果、今後の 6 次産業化部門を担う担当者育成や、新商品開発方針などを盛り込んだ発展戦略の素案が作成できました。

新商品の開発については、高糖度トマトの加工品として、ミネストローネが開発でき、もう一つの新たな加工品として、パスタソースを軸に開発を進めています。

また、野外販売用の新加工品として、「スイカスムージー」と「おにぎらず」が開発できました。両商品とも各種イベント等で非常に好評で、今年のヒット商品となりました。

普及指導センターは、今後も R ファームと協議を重ねながら、6 次産業化部門が順調に発展できるよう支援していきます。

複合品目として加工用タマネギに取り組む農家の 収量向上による産地の振興

対象者 大規模タマネギ生産者群

【普及活動のねらい】

令和2年度までの活動において、10aあたり4t以上生産したモデル農家を2戸育成しました。今年度は10aあたり4t以上生産できる農家を増やすため、加工業務用タマネギの総作付面積約8haの約6割を占める30a以上の農家を対象に、治療効果のある殺菌剤を中心とした予防防除・早期防除が実践できるよう支援を行いました。

また、早植え栽培や直は栽培などの新たな栽培方法の提案や、排水対策の徹底など働きかけを行いました。

【普及活動の内容】

令和4年産タマネギの栽培については、現地巡回や防除情報、気象条件を踏まえた情報誌の配付と現地での巡回を実施し、治療効果のある殺菌剤を中心とした予防防除・早期防除を提案しました。また、早植え栽培を実施した生産者については、収穫が適期に実施されるよう、収穫時期の判断や作業スケジュールの策定を支援しました。

令和5年産タマネギの栽培については、順調に定植作業を行うため、額縁明渠による排水対策や土壌診断の実施、「べと病」だけでなく収穫後の腐敗対策にも対応した殺菌剤のローテーション散布の提案を行いました。

【普及活動の成果】

令和4年産タマネギについては、提案を理解し早期防除の意欲が高まったことで積極的に防除を実施され、前作よりも治療効果のある薬剤を散布した割合が増加しました。「べと病」の被害による大きな収穫量の低下もなく、10aあたり4t以上収穫した農家が前作よりも増加しました。また、早植え栽培を実施した生産者については、前作と比較し、球重が重くなったことにより、慣行並の収量が確保できました。

令和5年産タマネギについては、早植え取組農家は増加しなかったものの、さらに排水対策を確実に実施したことで、定植作業が適期に計画的に実施できました。

今後も、タマネギ産地の収量の向上に向け、支援を継続します。



大型機械による収穫の機械化



定植時の碎土度合いと苗質を確認

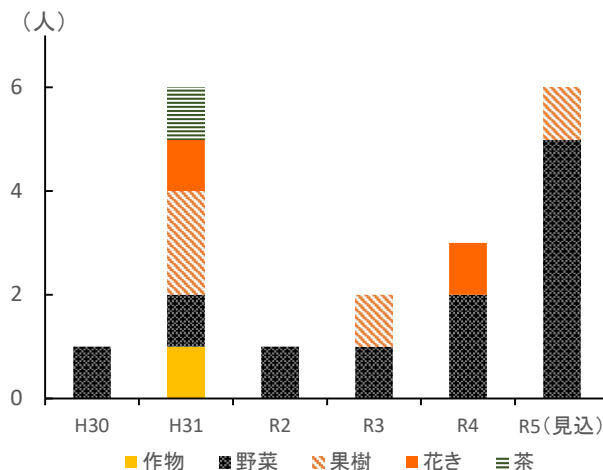
新規就農者の経営安定に向けた支援

対象者 管内新規就農者

管内では、平成30年から令和4年までの5年間で13名が就農され、令和5年には6名が新たに就農される見込みです。

各市で青年等就農計画の認定を受けた認定新規就農者に対しては、就農計画の目標が達成できるように、関係機関と連携しながら栽培技術や経営管理への支援を行っています。

今年度は、就農1年目の認定新規就農者を対象に、個別に普及指導計画に位置付けて重点的に支援するとともに、就農5年目までは、個別支援と集合研修を組み合わせ、経営が安定するように支援しました。



新規就農者数の推移と就農品目

就農1年目の新規就農者3名 ～農業経営の円滑なスタートに向けた支援～

青年等就農計画に基づき、それぞれの目標が達成できるように、各技術専門が担当となり、以下の活動内容で個別に支援しました。

- ・生育に応じた栽培管理
- ・観察に基づいた病虫害の診断と管理
- ・適正な労働配分や作業・技術の改善助言
- ・県内先進農家を訪問し、普及指導員以外の相談相手を紹介することによる不安の解消

経営品目は、施設野菜2名、施設花き1名で、栽培技術の習得による目標収量確保を共通課題とし、さらに就農者それぞれの品目や状況に応じた課題を設定しました。



キクの蕾の発達度合いを確認(C氏)

また、栽培のポイントとなる時期に適切な方法で栽培管理ができていないかを定期的に振り返りながら、栽培技術が定着するよう支援しました。

認定新規就農者を対象とした普及指導計画課題

	就農地	主な支援内容
A氏	甲賀市	施設トマトの収量確保
B氏	甲賀市	施設イチゴの苗数および収量確保
C氏	甲賀市	施設花きの収量確保および露地花きの収量確保

就農5年目までの新規就農者 ～早期経営安定に向けた支援～

就農計画の達成状況を振り返りながら、農業者自らが行う経営改善の取組を、次の内容の活動で支援しました。

- ・巡回による栽培管理技術習得
- ・サポートチームの個別訪問による就農計画達成状況確認と収支改善に向けた意見交換
- ・経営管理能力向上に向けた集合研修
- ・青年農業者クラブへの加入誘導とプロジェクト活動に対する指導



プロジェクト活動としてイチゴの栄養診断に取り組む就農青年を支援

認定新規就農者が早期に経営安定するためには、栽培技術の習得・向上だけでなく、決算書に基づいて経営の分析が行えるよう経営能力も養う必要があります。

そこで、まずは経営分析の基礎となる複式簿記の習得を目指した集合研修を連続講座で開催することとしました。連続講座には就農5年目までの新規就農者に加えて、令和4年度中の就農予定者や、農業後継者など13名が参加されました。参加した新規農業者からは、「複式簿記を身に着けて、判断力を養いたい」など意欲的な意見が聞かれました。

今後は、さらに経営能力を高められるよう個別相談による支援も行って参ります。



パソコン簿記の実例も交えた複式簿記指導

以上の取組の結果、就農年数に合わせた支援を行うことで、それぞれが現段階で習得が必要なこと、今後の目標とすることが明確化できました。今後も、野菜や果樹をはじめ新規就農者の増加が見込まれるため、引き続き、栽培技術の習得、経営力の向上、先輩農家との顔つなぎなど、経営安定に繋がる支援を行っていきます。

水稻の品種転換や栽培技術支援による品質の向上

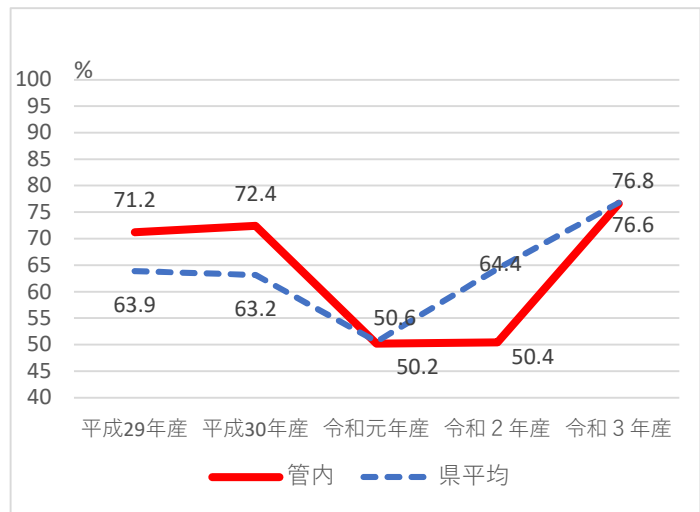
対象者 管内水稻生産者群

【普及活動のねらい】

当管内では、近年、主要品種である「コシヒカリ」「キヌヒカリ」の品質低下や、「日本晴」の年次による品質の差が大きいことが課題となっています。

また、令和元～3年度の水稲1等米比率が県平均を下回ったことなど、品質向上に向けた支援が強く望まれています。

そこで、「コシヒカリ」の品質向上や、「キヌヒカリ」「日本晴」から高温耐性品種である「みずかがみ」「きぬむすめ」への品種転換に向けた支援を行いました。



1等米比率の推移

【普及活動の内容】

現地研修会の開催、情報の提供

JAと連携し、「みずかがみ」「コシヒカリ」栽培者を対象に、管内3か所で現地研修会を開催しました。水管理や穂肥施用、病虫害防除対策を中心に、基本技術の励行を呼びかけました。

また、「きぬむすめ」の穂肥施用に関する情報提供や、今年は、斑点米カメムシやいもち病による被害拡大が懸念されたため、適期防除に向けた2回の緊急情報を発信しました。



穂肥時期の現地研修会の様子

「きぬむすめ」の実証ほの設置

次年度、「日本晴」から「きぬむすめ」に品種転換される集落営農法人のリーダーのほ場で、「きぬむすめ」の実証ほを設置しました。リーダーとほ場巡回を行い、生育経過の画像や生育調査の結果から、栽培管理について検討を行いました。

【普及活動の成果】

現地研修会や迅速な情報の提供により、栽培管理や病虫害防除が適切に実施された結果、管内の1等米比率は72.4%（12月現在）と、県平均の65.7%を上回りました。

また、「きぬむすめ」の実証ほは、10aあたり収量が553kgとなり、日本晴（集落営農法人平均）の420kgに比べ、大きく増収しました。

引き続きJAと連携し、水稻の1等米比率向上に向けての活動を展開していきます。

抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と収量の向上

対象者 抑制キュウリ栽培生産者

【普及活動のねらい】

管内では7月下旬に定植するキュウリの抑制栽培が取組まれています。昨年度、夏季の高温対策として、これまで実施されてきた「葉水」に ICT バルブを組み合わせた自動散水技術を導入し、初期成育の確保と収量の向上につなげました。しかし、ICT バルブの導入が難しい農家や、活用できる期間が短い農家があること、設定の目安となる指標がなく、具体的な活用方法を農家同士が相談しにくいなどの課題が残りました。そこで本年度は、温湿度ロガーを農家有志ほ場に設置し、温湿度データと栽培管理の考え方を共有するとともに、ICT バルブの指標の作成や長期間活用できる散水資材の導入により初期生育の確保と収量の向上に向けた支援をしました。



農家毎の温湿度データを解析した資料による意見交換

【普及活動の内容】

栽培管理を相談し合える雰囲気づくり

部会の同意を得て農家有志6戸のほ場に、クラウド上でデータ共有できる温湿度ロガーを設置し、温湿度データをキュウリ生産者がお互いに確認し合える環境を整備しました。毎週個別

訪問し、草勢と併せて、クラウドによる温湿度の推移を農家とともに確認し、栽培環境が生育に及ぼした影響を考察し、生育改善のための助言、指導を行いました。また、共選出荷に生産者が出荷場に集まることから、8月から9月にかけて延べ3回、農家毎の温湿度データを解析した資料を提供して、意見交換の場を設定し、栽培管理について農家同士が気軽に相談し合える雰囲気づくりに努めました。

新たな散水方法の提案と ICT バルブの効果的な活用

長期間活用できる頭上から散水できる散水チューブの展示ほを設置し、昨年度の使用実績や温湿度データ、気象予報を生産者とともに分析し、散水方法毎に適した葉水の実施時間と温度設定（指標づくり）について支援しました。

【普及活動の成果】

これらの活動により、ICT バルブを導入していない農家も含めて、ハウスの温度や湿度を確認しながら管理する意識付けにつながりました。新たな散水方法に変更した生産者は、ICT バルブを気温の低下する10月まで有効に活用し、昨年度を大幅に上回る収量となりました。ICT バルブを導入した農家4戸の総出荷量は、夏季の収量が改善された昨年度をさらに上回りました。生産者の間では、温度や湿度を意識した栽培管理が定着したことで、飽差管理に対する関心が高まり、湿度を意識した栽培管理ができたことで秋季の生育が向上した生産者もでてきています。当課では、今後も ICT バルブやクラウド等のスマート農業技術を活用した産地の維持、活性化につながる取組を続けてまいります。

枝物(ユーカリ)産地の育成

対象者 ユーカリ栽培農家

【普及活動のねらい】

近年、グリーン花材の需要が大きく伸びており、花き卸売市場や大手フローリスト（実需者）から本県でのユーカリ等枝物類生産の提案を受けていました。

普及指導センターは、水利が悪い（水が入らない）ほ場や不整形で作業性が低いほ場等、作付条件の不利な農地を活用できる品目として、令和元年度から各種会合や研修会を通じてユーカリの作付けを推進し、産地化を図ってきました。令和2年に8経営体で始まったユーカリ栽培は、令和4年度には15経営体となり、ユーカリ栽培の定着と市場での地位確立に向けての支援を行いました。

【普及活動の内容】

作付初年目の新規栽培者に対して、定植準備研修会を開催し、排水対策の実施や植付間隔、摘心、倒伏防止のための支柱立て等について説明し、ユーカリの特徴および必要な作業の理解と習得を図りました。

生育期間中は栽培者全員の現地巡回を行い、病害虫の発生状況を把握するとともに、注意が必要な病害虫や薬剤ローテーション例を示し、定期防除の実施を促しました。

また、JA および花き卸売市場担当者と連携して出荷規格の整理と荷造りの改善点について検討し、規格表を整理して新たなサイズの出荷箱で出荷することとしました。

収穫期前には出荷前研修会を開催し、収穫時期の判断方法および出荷調製の手順について説明したのち、生産者とともにほ場巡回を行うことで生産者間の交流を促しました。

さらに、昨年度に引き続き新規生産者の掘り起こしに向けた説明会を開催しました。開催にあたっては関係機関の広報誌等で開催を案内し、広く周知を図りました。



出荷前研修会



出荷されるユーカリ「アップル」

【普及活動の成果】

以上の取組の結果、今年度、管内では約2.25haで栽培が行われました。11月から今年度の本格出荷が始まり、11月末時点で約6,200本が関西花き卸売市場に向けて出荷されました。令和5年3月まで収穫と出荷が続けられます。

また、新規生産者確保に向けた説明会では12名の参加者のうち4名が次年度からのユーカリ栽培に関心を持たれ、栽培開始に向けて個別に対応しているところです。

引き続き、関係機関と連携し、甲賀地域でのユーカリをはじめとする枝物類の定着と産地化に向けた支援を行っていきます。

ぶどうの産地形成にかかる

個選共販体制の整備と出荷規格に応じた生産の実践

対象者 甲賀地域ぶどう栽培研究会

【普及活動のねらい】

平成 28 年度から、普及指導センターと関係機関が連携してぶどうの栽培者を募り、新たな産地づくりを進めています。以前までは直売所や庭先で販売を行っていましたが、生産量の増加から直売所への供給過多が懸念されたことから、新たな出荷先である量販店への試験的出荷や管内農家の量販店への出荷に向けた出荷規格に準ずる房づくり技術の向上を図ることをねらいとしました。

【普及活動の内容】

新規出荷先への出荷支援

各農家に対して販売意向および出荷量の聞き取り調査を行い、その結果をもとに JA と直売所および新規出荷先である量販店への出荷計画を作成しました。加えて、聞き取り結果から、出荷量が多く直売所への出荷割合が多い農家には、個別に出荷調整の依頼を行うことで、特定の農家からの出荷が偏らないように支援しました。

また、出荷規格についてもあらかじめ JA と細かい規格について協議を行うことで、現地での指導と量販店への出荷規格にズレが生じないように調整しました。

出荷規格に準ずる房づくりの指導

量販店への出荷に向けて、生産物の規格を揃えるために、花穂整形や摘粒などの房づくりや収穫適期判断の研修会をそれぞれ実施しました。また、研修会後は栽培歴の浅い農家を中心にフォローアップ指導を各栽培ほ場で行い、摘粒する粒の判断や目標とする房の形など、確実な技術の習得を支援しました。

【普及活動の成果】

量販店出荷には面積の大きい農家を中心に、6 戸の農家が 4 品種約 1,300 房を出荷されました。品質についても、クレーム等はなく、問題なく販売されました。

また、出荷規格に準ずる房づくりについても、昨年度よりも秀品率は向上し、シャインマスカットや藤稔については 8 割を超える秀品率となりました。今後も、量販店への出荷を見据えた房づくり支援とともに、各農家に対して量販店への出荷協力の呼びかけを行っていきます。



摘粒研修会の様子



量販店に出荷されたぶどう

甲賀地域のなし産地の育成

対象者 甲賀地域なし栽培研究会

【普及活動のねらい】

平成 28 年度から、普及指導センターと関係機関が連携してなしの栽培者を募り、新たな産地づくりを進めています。近年は、栽培年数の経過による樹冠の拡大や新規栽培者の増加により生産量が徐々に増えてきています。そこで、今年度は、通年の栽培研修会に加え、栽培上の課題や工夫を農家間で共有することを目的とした管内なしほ場の見学や、果実品質の向上のための現状把握を目的とした糖度測定会を行いました。

【普及活動の内容】

なし栽培研究会では、栽培年数の長い方では収穫 5 年目を迎え、栽培管理などの技術が確立されてきており、安定的に収穫が行われるようになってきました。一方で、初収穫を迎える方や新規栽培者もおられるため、研修会や現地巡回など、栽培経験に合わせた支援を行っています。

管内なしほ場の見学

ほ場の見学では、なし栽培研究会の農家、JA と管内 5 戸の農家のほ場を見学しました。枝管理や果実の付け方など栽培管理について、かん水設備の設置方法など施設についての話題が多く出ており、先輩農家と新規栽培者の間でも情報交換ができました。出ていた意見うち、多くの農家で側枝の更新が共通の課題になっていることが分かりました。



ほ場見学の様子

糖度測定会

糖度測定会では、なし栽培研究会の農家、JA となしの糖度測定を行いました。各農家が収穫したなしを持ち寄り、非破壊糖度計を用いて測定しました。他県や県内他産地のなしの糖度測定もあわせて行い、管内でも他産地と同等の糖度の高いなしが生産できていることが確認できました。また、地元産ならではのみずみずしさが特徴となっていることも分かりました。



糖度測定会の様子

【普及活動の成果】

栽培開始から年数が経過し、改めて栽培上の課題や果実品質などの現状を把握することができました。管内で生産されたなしは農協直売所や各戸の庭先販売などで順調に販売されていますが、新規栽培者の増加による栽培面積の拡大、生産量の増加が予想されていることから、今後は安定販売を目的とした個選共販体制の整備に向けた支援を行います。

イチゴ新規栽培者の販路確保と産地の育成

対象者 イチゴ新規栽培者

【普及活動のねらい】

管内ではイチゴ生産者が急増しており、年々生産量が増加しています。このため、これまでイチゴの販売は庭先や直売所への出荷が中心でしたが、直売所において販売の競合がみられるようになり、新規栽培者が安定して経営するためには新たな販路の開拓が急務となっています。

そこで、新たな販路として共同販売の体制づくりに向けて JA こうかをはじめとした関係機関と連携して、来年度の本格実施に向けて支援を行いました。

【普及活動の内容】

共同販売に向けた意識醸成

令和4年3月から6月にかけて、新規参入した生産者2戸および既存生産者1戸によるトライアル出荷を実施しました。今年度はこのトライアル出荷結果の振り返りと、安定的な出荷の実現に向けた意見交換会を実施しました。また、管内の高設イチゴ生産者全戸を対象とした共同販売に関するアンケート調査を行うとともに、共同販売が経営のプラスとなる生産者を深掘りして共同販売に誘導し、仲間づくりによる販売体制の強化を図りました。さらに、出荷開始に向けて共同販売に意欲的な生産者に限定した共同販売開始に向けた研修会を12月22日に開催しました。

安定出荷に向けた栽培管理支援

栽培経験が浅い生産者が安定的に出荷できるよう集合研修や、栽培ハウスの相互訪問、個別巡回等により栽培管理技術の向上に向けた支援を継続的に実施しました。共同販売では安定した出荷が求められることから、葉や花芽の展開など草勢だけでなく、排液のEC値や葉柄中の硝酸イオン濃度などリアルタイムのデータで生育状況を把握し、栽培管理の改善に向けた技術指導を行いました。

【普及活動の成果】

共同販売に意欲的な生産者の仲間づくりにより、昨年度トライアル出荷した3戸に加え、あらたに2戸が共同販売を開始されます。来年度就農予定の生産者も就農計画に共同販売を位置付けるなど、共同で販売していく意識が高まっています。

今後も、共同販売体制づくりと安定出荷技術支援の両輪による支援を継続し、既存栽培者も、新規栽培者も安心して、イチゴを作れる、売れる産地を目指します。



トライアル出荷の意見交換会



イチゴの栄養診断

土山茶の新ブランド「土山一晩ほうじ」の育成支援

対象者 土山町茶業協会

【普及活動のねらい】

甲賀市土山町は、「近江の茶」の7割以上を占める県下最大の茶産地ですが、全国的に見ると生産量は少なく、「土山茶」としての知名度は低い状況にあります。また、令和2年以降、コロナ禍によるインバウンド需要の低迷等により、荒茶価格が著しく低下し、さらに燃料費や資材費の高騰も相まって、茶業経営の厳しさは深刻です。

そこで、土山茶のブランド力強化を図るため、他産地にはない新たな発想のもと、新しいブランド茶を作り上げることを目標として、土山町茶業協会（以下「協会」）や関係機関と連携して、新ブランド「土山一晩ほうじ」の育成を支援しました。

【普及活動の内容】

「土山一晩ほうじ」のコンセプトと原料茶生産体制の確立

茶業会議所ブランディング部会（以下「部会」）において、他産地にはない新たなほうじ茶を核とした新ブランド商品の開発について、協会や関係機関で何度も話し合いや試作、試飲等を繰り返し、新ブランドのコンセプトを決定しました。その後本格的な生産に向けて原料茶生産希望農家を募集しました。当課は主に原料茶の製造法に関する相談や、求評会開催にむけてのサンプル収集などを支援しました。

「土山一晩ほうじ」の効果的なPR実施の支援

部会で話し合いを重ね、ホームページの作成、クラウドファンディングや商品発表会の開催、各地でのPR活動、PRグッズの作成等が行われました。当課は、主に県広報担当者との連携、ホームページ内のほうじ茶物知りコーナー作成等の支援を行いました。

【普及活動の成果】

これらの活動の結果、コンセプトは「協会員が栽培し、12時間以上萎凋させた香り高い茶葉を、滋賀県茶商業協同組合員等が焙煎したもの」と決定され、初年度は8名の生産者が原料茶づくりに取り組むことになりました。販売業者13件とのコラボで様々なバリエーションの商品ができました。

当課は、原料茶づくりにあたって、萎凋茶の製造に不慣れな農家を中心に相談を受け、十分な萎凋香が出るまで萎凋を続けるなど指導したことから、安定した品質の原料茶を生産することが出来ました。

今後も求評会の開催などを通じて「土山一晩ほうじ」のブランド確立を支援していく予定です。



「土山一晩ほうじ」の商品バリエーション



商品発表会の様子

コロナ禍における第 74 回関西茶品評会への出品支援

対象者 土山町茶業協会・信楽町茶業協会

【普及活動のねらい】

本年 8 月に、甲賀市を会場に「第 74 回関西茶品評会」が開催されました。関西茶品評会は、茶の生産技術や品質向上、需要増進を目的に、岐阜県・愛知県・三重県・京都府・奈良県・滋賀県の 6 府県で、「普通煎茶」、「かぶせ茶」、「深蒸し煎茶」、「玉露」、「てん茶」の 5 つの茶種において優劣を競う品評会です。

令和 2 年以降、新型コロナウイルスの感染拡大によって、甲賀地域からの出品は低迷していましたが、品評会を通じて土山茶と朝宮茶のブランド力向上を図るため、コロナ禍に対応した出品体制の構築や出品茶の摘採製造指導により、品評会への出品を支援しました。

【普及活動の内容】

出品体制の構築支援

関西茶品評会での上位入賞には、一芯二葉で手摘みをする必要がありますが、コロナ禍で密を避け摘採・製造するのが困難で、出品を断念するか、機械摘みに切り替え上位入賞を諦める状況が続いていました。そこで、多くの出品点数を得るため、関係機関と連携し、土山町と信楽町の茶業協会に対して、出品茶摘採・製造時の新型コロナウイルス感染防止対策の提案や、これまで入賞経験の無い機械摘みの出品体制の整備を支援しました。

出品茶の摘採・製造支援

最高品質の出品茶を摘採するためには、摘採時期と摘採位置の見極めが重要です。茶業協会役員などとともに出品茶園を巡回し、最適な摘採日程を助言しました。また、摘採日には、一芯二葉の手摘み方法を摘み子さんに指導するとともに、機械摘みでは摘採位置をミリ単位で指導しました。摘採後は、製茶工場において、茶葉の品質が損なわれないよう細心の注意を払いながら、出品茶特有の製造方法を実演指導しました。



出品茶の機械摘み



出品茶の製造指導

【普及活動の成果】

こうした活動の結果、関西茶品評会には、甲賀地域から「普通煎茶」と「かぶせ茶」、「てん茶」の部に合計 46 点の出品があり、審査の結果、「普通煎茶」と「かぶせ茶」で甲賀市の生産者が 1 等 1 席の農林水産大臣賞を獲得されました。また、各市町の上位 3 点で競われる産地賞も甲賀市が「普通煎茶」と「かぶせ茶」で 1 位となるなど、土山茶と朝宮茶の生産技術のレベルの高さを内外に示すことができました。さらに、今回から新たに取組んだ機械摘み出品でも 24 点中 17 点が入賞するなど優秀な結果を残すことができ、今後のウィズコロナ時代に向けた少人数での出品体制に手ごたえを感じることができました。引き続き、関西茶品評会への出品を通じてブランド力の向上につなげたいと考えています。

オーガニック米の収量向上

対象者 甲賀市水口町 農事組合法人 S

【普及活動のねらい】

農事組合法人 S は、平成 28 年に水稻生産の有機 JAS 認証を取得されました。しかし、茎数不足や雑草の繁茂により収量性が低いことが問題となっていました。昨年度、健苗育成や乗用除草機による除草作業での苗の踏みつぶしの改善により、10a あたり 300 kg 以上の収量となり、以前に比べ 100 kg 近くの増収となりました。

今年度は、苗の踏み荒らしを軽減するための乗用除草機作業体系の定着化と、初期生育の茎数確保および生育状況に応じた施肥管理の支援を行いました。

【普及活動の内容】

適正な乗用除草機作業体系の定着化

乗用除草機による除草作業での苗の踏み荒らしの軽減は、田植機と乗用除草機が同じ作業行程で実施することが大切であること、その方法として、田植時に条間の中心（8 条植：4 条と 5 条の間）に乗用機械除草時の旋回の日印棒を立てる必要性を説明し、実施を促しました。

初期生育の確保と生育状況に応じた施肥管理

初期生育の確保のため、従来の栽植密度の坪あたり 60 株から 70 株への変更を提案しました。

また、生育の推移をほ場ごとに画像で示し、葉色のデータと併せて法人と検討を行い、適正な施肥管理となるよう支援を行いました。

【普及活動の成果】

乗用機械除草での苗の踏み荒らしの対策について理解され、当課の支援がなくても実施できるようになりました。また、栽植密度を坪あたり 70 株にしたことにより、初期生育を確保できました。施肥管理については、田植後、生育状況を踏まえながら 4 回の施肥を行いました。

以上の取組から、10a あたり平均 339 kg（6 筆：183a）の収量を確保できました。

引き続き、さらなる収量アップを目指して、支援を行っていきます。



乗用除草機による除草風景

8月24日状況
今後の予定：20日に落水し9月上旬に刈り取り予定。 →ほ場巡回により検討

8月30日



ほ場ごとの画像による生育推移の把握（抜粋）

障がい者の就業機会の拡大のための 職業指導員のなし栽培技術の習得

対象者 職業指導員 S 氏

【普及活動のねらい】

管内の就労継続支援 B 型事業所 W では、農業事業として、いちご、露地野菜、なしなどの農作物を栽培し、職業指導員 S 氏が利用者へ栽培指導を行っています。しかし、S 氏はなしの栽培経験がないため、S 氏自身の栽培技術の習得と利用者への栽培指導の方法が課題となっていました。そこで、職業指導員の技術習得を通じた障がい者の農に関する就業機会の拡大を目指し、S 氏に対する技術指導支援と、S 氏が利用者へ栽培指導を行う際に活用できる指導資料の作成支援を行いました。

【普及活動の内容】

なし栽培の技術指導支援

なし栽培の基本技術習得のため、甲賀地域なし栽培研究会の研修会に参加し、年間の栽培管理の流れや方法が習得できるよう支援しました。さらに、先輩農家の園で、栽培管理の注意点やコツを教わる機会を設けました。また、枝管理などの日々の管理作業や、病虫害発生時の対応など、現地での指導をこまめに行いました。

技術習得の達成度を測ることを目的に、年間に必要な作業をまとめた「理解度チェックシート」を作成し、S 氏自身の理解度を確認しました。また、次年度に向けて支援が必要な部分や、利用者への栽培指導について S 氏の意向を確認しました。

指導資料の作成支援

利用者へ栽培指導を行う際に使用する指導資料については、資料が必要な作業を聞き取り、図や写真を中心に見やすく分かりやすい資料になるよう、S 氏と相談しながら作成支援を行いました。

【普及活動の成果】

研修会や先輩農家の園での作業、現地指導を通して、「理解度チェックシート」の理解度が 90% となり、S 氏自身の栽培技術の習得を図ることができました。また、栽培管理では、病気の発生や枝管理の遅れなどの課題が生じたものの、指導資料も試験的なものが作成でき、S 氏が利用者へ栽培指導を行う準備ができました。今後も、S 氏自身の栽培技術の向上と、利用者に対してより効果的な栽培指導を行い、安定した収量が確保できるよう支援を行っていきます。



なし園で枝管理について説明

項目	内容	達成度	備考
なしの基礎知識	なしの歴史、産地、品種、栽培方法、病害虫発生時の対応などについて説明し、理解度を高める。また、なしの栽培に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	
なしの栽培管理	なしの栽培管理の流れや方法について説明し、理解度を高める。また、なしの栽培に必要な作業の順序やタイミングについて説明を行う。	○	
なしの枝管理	なしの枝管理の方法について説明し、理解度を高める。また、なしの枝管理に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	
なしの病虫害発生時の対応	なしの病虫害発生時の対応方法について説明し、理解度を高める。また、なしの病虫害発生時の対応に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	
なしの収穫	なしの収穫の方法について説明し、理解度を高める。また、なしの収穫に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	
なしの貯蔵	なしの貯蔵の方法について説明し、理解度を高める。また、なしの貯蔵に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	
なしの販売	なしの販売の方法について説明し、理解度を高める。また、なしの販売に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	
なしのその他	なしのその他の事項について説明し、理解度を高める。また、なしのその他の事項に必要な道具や資材の紹介を行う。	○	

理解度チェックシート

表彰事業受賞の概要

令和4年春の叙勲・褒章

旭日単光章

甲賀市信楽町 北田 耕平（きただ こうへい）さん

北田さんは、甲賀市信楽町において60年間にわたり茶業に従事し、朝宮茶の生産振興に尽力されました。

朝宮茶の優れた香気と深い滋味は、山間地特有の大きな寒暖差によって生み出されますが、一方で、茶園の大部分が急傾斜地にあるため、作業効率が低く、規模拡大が困難でした。北田さんは、こうした中、最新の製茶技術の導入や独自の労働協定の締結など、地域に先駆けた取組により、地域最大級の5.7haにまで経営規模を拡大するとともに、関西茶品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど高品質茶の安定生産を同時に実現し、山間地域茶業の経営安定化に貢献されました。また、市農業委員会会長をはじめ、信楽町茶業協会会長や滋賀県指導農業士など地域の要職を歴任され、地域農業発展と後継者育成に尽力されました。

こうした功績が高く評価され、令和4年春の叙勲で旭日単光章を受章されました。



令和4年秋の叙勲・褒章

黄綬褒章

甲賀市土山町 安井 敬一（やすい けいいち）さん

安井さんは、甲賀市土山町において2.8haの茶園を経営されている茶専作農家で、昭和40年の就農以降、土山茶の生産に邁進してこられました。

安井さんは、昭和40年代に県内最大の頓宮開拓パイロット集団茶園の造成に関わられるとともに、当時開発された防霜ファンの集団茶園への導入に尽力され、地域茶業の経営安定化に貢献されました。また、地域に先駆けてかぶせ茶生産を開始され、平成14年の全国茶品評会で最高位の農林水産大臣賞を受賞されたほか、関西茶品評会においても農林水産大臣賞を3度受賞されるなど、かぶせ茶生産の第一人者として生産技術の向上と産地形成に貢献されました。さらには、平成16年から4年間にわ



たり土山町茶業協会会長を務められ、平成17年には関西茶業振興大会、平成19年には全国茶まつりの地元開催に尽力されました。

こうした功績が高く評価され、令和4年秋の褒章で黄綬褒章を受章されました。

表彰内容 令和4年度全国優良経営体表彰 6次産業化部門

表彰名 農林水産大臣賞

甲賀市水口町 (有)るシオールファームさん

有限会社るシオールファームは、平成7年に県内に先駆けて法人化し、現在の経営面積は116haと、県内有数のメガファームです。水稲80haをはじめ、麦、大豆、露地野菜、イチジク、施設イチゴなど約50品目を作付けされています。

「大地の恵みである農産物を消費者に届ける架け橋となる」をモットーに、地域のおいしい農産物を消費者に直接届けたいとの思いから、平成30年より農家レストラン「べじらいす」を設立されています。

今回の表彰では、直売所やレストランで、自社農産物や加工品を提供し、地域の特産物などを手広く販売されています。このように、6次産業化部門が新たな経営の柱へと成長していることが高く評価され、10月20日に福井県越前市で開催された「第24回全国農業担い手サミットinふくい」において、農林水産大臣賞を受賞されました。



第74回関西茶品評会 普通煎茶の部

農林水産大臣賞

甲賀市信楽町 洞 重則（ほら しげのり）さん

洞さんは、平成16年に甲賀市信楽町朝宮地域へUターン就農され、現在では3.5haの茶園を経営されています。

有機質肥料と深耕を組み合わせた土づくりと、適期に丁寧に作業することで、朝宮茶らしい高品質な茶生産を目指しておられます。また、傾斜茶園が多い朝宮地域にあって、いち早く乗用型摘採機の導入を決断され、比較的平坦な茶園で可能な限り活用することで、人件費を抑えながら精密な摘採を実現され、品質の向上を図られています。



こうした高品質茶への取組により生産された洞さんの普通煎茶は、8月に開催された第74回関西茶品評会において、関西6府県から出品された146点の中、堂々の第1位を獲得され、11月に開催された第74回関西茶業振興大会において、農林水産大臣賞を受賞されました。

第74回関西茶品評会 かぶせ茶の部

農林水産大臣賞

甲賀市信楽町 片木 享央（かたぎ たかお）さん

片木さんは、甲賀市信楽町朝宮地域において2haの茶園を経営されている茶農家で、昭和55年の就農以降一貫して朝宮茶の生産に従事されています。

有機質主体の施肥体系で肥培管理され、茶園の状態を見ながら適期に適量を施肥する工夫をされるなど、朝宮茶らしい高品質茶の生産に努めておられます。また、朝宮地域では少なくなった棚被覆に加え、被覆適性の高い「さえみどり」を栽培されるなど、高品質なかぶせ茶の生産に徹底してこだわっておられます。



さらに、今後のてん茶生産を見越して、晩生品種で被覆適性の高い「おくみどり」も栽培されるなど、「やぶきた」偏重が著しい朝宮地域においては珍しい多品種栽培の取組も実践されておられます。

こうしてこだわり抜いて生産された片木さんのかぶせ茶は、8月に開催された第74回関西茶品評会において、関西5府県から出品された48点の中、堂々の第1位を獲得され、11月に開催された第74回関西茶業振興大会において、農林水産大臣賞を受賞されました。

表彰内容 令和4年度滋賀県農林水産表彰

表彰名 農林水産功労賞

甲賀市信楽町 山本 重和（やまもと しげかず）さん

山本さんは、昭和39年に甲賀市信楽町朝宮地域へ就農されて以来60年余り朝宮茶一筋、現在では2.3haの茶園を経営されています。

山本さんは、在来種から「あさつゆ」などの優良品種への改植、防霜ファンの整備、直売など朝宮地域のモデルとなる茶業経営をいち早く確立されました。

また、若手、中堅茶農家の情報交換の場の設立が重要と考えられ、「滋賀県茶生産青年協議会」や、「朝宮茶論（あさみやさろん）」などの設立に貢献されました。

山本さんは信念である「丁寧主義」により、適期に丁寧に作業することで、朝宮茶らしい高品質な茶生産を目指しておられます。こうした高品質茶への取組により、各種品評会で複数回農林水産大臣賞を受賞されています。また信楽町茶業協会の副会長をはじめ、地域の要職も歴任されてきました。

これら数々の功績が認められ、この度農林水産功労賞を受賞されました。



表彰内容 令和4年度滋賀県農林水産表彰

表彰名 農林水産奨励賞

甲賀市水口町 西本 誠（にしもと まこと）さん

西本さんは、転職するなら全く異なる業界にチャレンジしたいと考え、かねてから関心の高かった農業に挑戦されました。農業大学校就農科で1年間学び、平成29年に半促成栽培トマト、抑制裁培キュウリの生産部会に参加し、経営を開始されました。令和3年には半促成栽培イチゴを導入し経営規模を拡大されました。キュウリ・トマト栽培では、部会でも上位の収穫量を達成するとともに、ICTバルブを地域で先駆けて導入し、地域におけるスマート農業技術の定着に貢献されてきました。また、高齢化が進む部会員と後継者との橋渡しを担うなど、若いリーダーとして部会の活性化に貢献されています。今後の農業の担い手としてのさらなる活躍が期待されるところであり、この度の受賞となりました。



令和4年度 表彰者一覧

表彰年月日	表彰名	部門	受賞名	受賞者・受賞組織	市町名
令和4年4月29日	令和4年春の叙勲・褒章	茶	旭日単光章	北田 耕平	甲賀市信楽町
令和4年11月3日	令和4年秋の叙勲・褒章	茶	黄綬褒章	安井 敬一	甲賀市土山町
令和4年10月20日	令和4年度 全国優良経営体表彰	6次産業化	農林水産大臣賞	(有)るシオールファーム	甲賀市水口町
令和4年12月20日	令和4年度 滋賀県農林水産表彰	茶	功労賞	山本 重和	甲賀市信楽町
令和4年12月20日	令和4年度 滋賀県農林水産表彰	野菜	奨励賞	西本 誠	甲賀市水口町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (普通煎茶)	農林水産大臣賞	洞 重則	甲賀市信楽町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (普通煎茶)	農林水産省農産局長	黒田 為三	甲賀市信楽町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (普通煎茶)	農林水産省農産局長	小川 伊之輔	甲賀市信楽町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (普通煎茶)	(公社)日本茶業中央会長賞	グリーンティ土山 佐伯 友樹	甲賀市土山町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (普通煎茶)	全国茶生産団体連合会長賞	安井 千鶴	甲賀市土山町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (普通煎茶)	日本茶業学会会長賞	辻本 一喜	甲賀市信楽町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (かぶせ茶)	農林水産大臣賞	片木 享央	甲賀市信楽町
令和4年11月5日	第74回関西茶品評会	茶 (かぶせ茶)	農林水産省農産局長	前野 益男	甲賀市土山町
令和4年12月3日	令和4年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	農林水産省近畿農政局長賞	山崎 容子	甲賀市水口町
令和4年12月3日	令和4年度 滋賀県花き品評会	花き(枝物)	滋賀県議会議長賞	(農)酒人ふぁ〜む	甲賀市水口町
令和4年12月3日	令和4年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	花卉園芸新聞社長賞	加藤 暢一	甲賀市甲南町
令和4年12月3日	令和4年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	近鉄百貨店草津店賞	山崎 容子	甲賀市水口町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (せん茶)	農林水産大臣賞	グリーンティ土山 佐伯 友樹	甲賀市土山町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (せん茶)	近畿農政局長賞	前野 善則	甲賀市土山町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (せん茶)	滋賀県知事賞	黒田 真明	甲賀市信楽町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (せん茶)	(公社)日本茶業中央会長賞	グリーンティ土山 佐伯 友樹	甲賀市土山町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (せん茶)	滋賀県議会議長賞	小川 伊之輔	甲賀市信楽町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (かぶせ茶)	近畿農政局長賞	前野 善則	甲賀市土山町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (かぶせ茶)	滋賀県知事賞	中村 哲三	甲賀市土山町
令和4年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第47回荒茶品評会	茶 (かぶせ茶)	(公社)日本茶業中央会長賞	大谷 清一	甲賀市信楽町
令和5年2月17日	令和4年度 滋賀県果樹品評会	果樹 (いちじく)	株式会社長浜合同青果社長賞	浅野 正明	甲賀市水口町
令和5年2月17日	令和4年度 滋賀県果樹品評会	果樹 (いちじく)	滋賀県果樹組合連合会長賞	東 宗司	甲賀市水口町

参 考 资 料

グリーンカルチャー

令和4年度
夏号
No.321

こらか

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課

住所 | 〒528-8511

甲賀市水口町水口6200

電話 | 0748-63-6126

発行責任者 | 河村 久紀



■ 関西茶品評会の出品が進む

今年度甲賀市で開催される第74回関西茶品評会に向けて、土山町と信楽町で出品茶の手摘みが実施されました。

5月のさわやかな風薫る中、順調に生育した新芽の先端の一芯二葉だけを、摘み子さんたちが丁寧に摘みとり、非常に良質な出品茶に仕上げることができました。



野菜を栽培してみませんか？

タマネギ栽培のすすめ

当課では、水田を活用した野菜栽培の定着を目指して、JAこうかなどの関係機関と連携して栽培指導や啓発活動を実施しています。今回は、甲賀地域でも近年、作付けが拡大しているタマネギ栽培を紹介します。タマネギは麦とほぼ同様の作期でほ場を利用でき、野菜の中でも比較的取り組みやすい品目の一つです。

■ タマネギ栽培の特徴

タマネギ栽培は、水稻や夏野菜の後の水田に作付けすることができます。近年、作業機械の利用による省力化が実現しており、他の秋冬野菜と比較して取り組みやすく、大面積での栽培も可能です。

滋賀県農業経営ハンドブックによる経営試算では、10aあたり5t収穫すると、おおよそ18万円の収益が見込めます。

■ タマネギ栽培の流れ



全自動は種機

育苗トレイに自動では種する



全自動移植機

育苗トレイをセットし、4条に自動で植え付ける

早植えタマネギ増加中！

タマネギは通常11月上旬から定植するところを、甲賀地域では、10月下旬に定植する早植えのタマネギを実施しています。

10月下旬に定植することで、他の品目との作業競合を回避でき、定植期間を確保しやすくなります。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
タマネギ作付体系			○ 播種	-- ×	× × 定植							■ 収穫



収穫機

葉を一定の長さに切断しながら掘り起こす



ピッカー(拾い上げ)

収穫機で掘り起こしたタマネギを拾い上げ、コンテナにつめる



出荷

茎などを調整し、サイズごとに分ける

JAでは、苗を購入できるほか、播種作業を委託することも可能です。また、一定面積以上の作付けを条件に、全自動移植機、収穫機、ピッカーの貸出をされています。調製・出荷作業もコンテナ出荷により簡略化されています。

タマネギ栽培に関心がある方は、当課までお問い合わせください。

令和4年 春の叙勲を受賞!!

旭日単光章

北田 耕平 さん

北田耕平さんは、信楽町朝宮地域において60年間にわたり茶業に従事し、朝宮茶の生産振興に尽力されました。

朝宮茶の優れた香気と深い滋味は、山間地特有の大きな寒暖差によって生み出されますが、一方で、茶園の大部分が急傾斜地にあるため、作業効率が低く、規模拡大が困難でした。

北田さんは、こうした中、最新の製茶技術の導入や独自の労働協定の締結など、地域に先駆けた取組により、平坦地並みの5.7haにまで経営規模を拡大するとともに、全国茶品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど高品質茶の安定生産を実現し、優秀モデル農家として山間地域茶業の経営安定化に貢献されました。

また、市農業委員会会長をはじめ、信楽町茶業協会会長や滋賀県指導農業士など地域の要職を歴任され、地域農業発展と後継者育成に尽力されました。

こうした功績が評価され、この度、令和4年春の叙勲で旭日単光章を受章されました。



これからの農作業、事故に注意!

未然に防ごう!

もうすぐ稲の刈り取りがスタートする時期になりました。

甲賀地域において、令和3年度は5件の農作業事故があり、うち2件は水稻の刈り取り時に起こっています。

農作業が忙しくなるこの時期だからこそ、作業の際には気を緩めず、下記の事項に注意し、作業を行いましょう。

コンバイン作業時の主な注意点

- 衣類が機械に巻き込まれないよう、作業に適した服装を!
- 機械から離れるときや詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止!
- 周囲の作業者に危険がないか、適宜周囲を確認!
- 緊急時の連絡用に、携帯電話の準備を!



トラブルの際はまずはSTOP!



動かす前に周囲を確認!

指導農業士紹介

指導農業士制度とは、新たな担い手の育成や農業振興のリーダーとして活躍していただく農業者を市長の推薦により、知事が認定する制度です。令和3年度に2名、令和4年度に1名が認定され、管内の指導農業士は総勢18名となりました。

令和3年度認定

有限会社ティアイケイ農産

よしだ むねひろ

吉田 宗宏さん

吉田さんは、湖南省岩根の中心経営体であるティアイケイ農産の取締役として、水稲麦大豆を担当されています。水稲栽培における環境こだわり農産物の導入面積を継続的に拡大されるなど、地域の環境保全型農業の先導的役割を果たされています。



令和3年度認定

有限会社ティアイケイ農産

もりおか としひろ

盛岡 利宏さん

盛岡さんは、湖南省岩根の中心経営体であるティアイケイ農産の取締役として、園芸部門を担当されています。地域の伝統野菜である下田ナスのほか、キャベツやタマネギをはじめとした土地利用型作物を基幹作物として栽培し、モデル的な経営を実現されています。



令和4年度認定

Tomikawa green farm 富川 育久さん

とみかわ やすひさ

富川さんは、水口町施設園芸部会の中心的な経営者で、施設栽培のトマト・キュウリを生産されています。温湿度データ等に基づく施設管理や気象に合わせた環境制御により高品質・高収量な生産を実現されています。



滋賀県農業大学校のご案内

滋賀県立農業大学校（専修学校）では、専門技術・知識を学ぶことができ、在学中に各種資格の取得可能です。農業で生計を立てたい方、県農業大学校で学んでみませんか。

	修業 年限	定員 (名)	主な応募要件	専攻	受付期間 (一次募集)
養成科	2	30	高等学校卒または卒業見込みのもの	水田農業、茶、施設園芸、果樹、畜産	令和4年11月25日～ 12月6日(必着)* ¹
就農科	1	15	20～65歳かつ修業後に県内で農業経営開始が確実なもの	園芸	令和4年11月8日～ 12月9日(必着)* ²

その他に推薦募集*¹、二次募集*^{1,2}が予定されています。定員に達した場合、二次募集は実施されません。

※詳しくは、県農業大学校（0748-46-2551）、または当課までお問い合わせ下さい。

グリーンカルチャー



こらか

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課
住所 | 〒528-8511
甲賀市水口町水口6200
電話 | 0748-63-6126
発行責任者 | 河村 久紀



■ 甲賀地域で今、ブドウとナシの生産が増えています！

甲賀地域産の果樹を望む声から始まったブドウとナシの栽培は、初期投資を抑えた低コスト棚、作業労力を軽減したブドウ改良仕立て栽培やナシ低樹高栽培といった新技術を活用しながら、広がっています。

今回は甲賀地域で導入されている新技術の概要について紹介します。



新技術で果樹栽培にチャレンジ！

甲賀の果樹栽培は、ブドウやナシを推進品目として平成25年から地域一丸となって取組を進め、定年帰農者や法人経営体を中心に栽培が行われています。最近では、農福連携の取り組みや若手の新規就農者など新たな栽培者もみえ、生産が拡大しています。

収穫されたブドウやナシは主に直売所や自家販売で販売量が年々増加し、消費者から好評を得ています。現在では、地元量販店への出荷にもチャレンジしています。

◆自分で施工が可能な「低コスト果樹棚」

滋賀県で推奨している「低コスト果樹棚」は、園芸店などで市販されている直管パイプや接続金具を使用して自分で施工することができます。従来の果樹棚の約1/3の経費で建設が可能で、果樹栽培で負担の大きい初期投資を抑えることができます。

また、「低コスト果樹棚」は、ほ場の形状や面積に合わせて導入できるため、小面積からでも栽培を始めることができ、後から増設することも可能です。



実際に導入されている簡易棚

◆「改良仕立て栽培」について



「低コスト果樹棚」と合わせて「改良仕立て栽培」を勧めています。

「改良仕立て栽培」は主な管理を顔の位置で行えるため、肩がこりやすい上向きの作業を減らし、軽労化を図ることができます。

また、一文字型に伸ばした主枝から結果枝を出すため、作業の方向も直線的に行うことができ、管理しやすい栽培方法です。



顔の前で作業が可能

◆「低樹高栽培」について



低樹高栽培は、主枝を1mと低い樹高とし、そこから果実をつける結果枝を伸ばす樹形です。低樹高栽培のメリットは、①樹高が低いため、手の届く範囲に果実が成り、栽培管理・収穫が行いやすい、②従来のナシ栽培と比べ、成園（枝が十分に伸び、目標の収量が取れる状態）になるのが早く、早期から十分な収量を確保することができる、また、③従来のナシ栽培と比べ、枝の配置方法がシンプルであるため、せん定作業を行いやすいことです。



自然な立ち姿で作業ができます

小麦新品種「びわほなみ」について

これまで小麦の主要品種として栽培されてきた「農林61号」は倒伏し易く、病害被害等から収量・品質が安定しない等の問題があり、実需者からはより製粉性に優れた品種への転換が望まれていました。

この新品種は滋賀県が推進しており、県内では令和2年から品種転換が始まっています。

J Aこうか管内では、令和5年の秋播きから、「農林61号」から「びわほなみ」への作付へと品種転換が行われます。

「びわほなみ」は、「農林61号」より倒伏しにくく、増収が期待できます。さらに、収穫時期が早く梅雨入り前に刈取作業ができるほか、製粉適性も優れており、実需者のニーズにもマッチしています。

■ 「びわほなみ」の特徴

「農林61号」と比較して

- ・穂数は20%、収量も20%多い。
- ・成熟期が3～4日(6月初旬～)早く、稈長が短く、倒伏しにくい。
- ・日本麦の製粉適性が高い。



■ 「びわほなみ」の栽培のポイント

◆ 凍霜害や病害の発生リスクを軽減するために、播種時期を少し遅らせませす。

中山間地の目安: 11月5日～
平坦地の目安 : 11月10日～

◆ 茎立期(2月中・下旬位)に穂肥を施用します。

穂数と1穂粒の増加による増収効果!

◆ 赤かび病の防除は基本2回防除

良品質麦の生産!



濁水防止！田植えまでの基本技術

毎年、4月中旬から5月下旬の代かき、田植えの時期にかけて、水田から流れ出た濁った水が河川に流れ込み、琵琶湖の濁りの原因となっています。水稻を栽培されている全ての農家の皆さんが、下記の基本技術を再確認し、農業排水対策に取り組んでいただきますようお願いします。

- 丁寧な均平作業
- 畦、排水口の漏水対策(畦の亀裂や穴を補修、止水板の設置)
- 浅水代かきの実施(土が7～8割見える状態で代かき)
- 代かき前、田植え前は水を落とさない
(計画的な作業により強制落水をしない)



切り花リンドウの栽培を始めませんか？

リンドウは、初夏から秋にかけて主に鮮やかな青紫色の花をつける宿根草で、近年ではお盆や秋の彼岸にお仏壇やお墓にお供えする「仏花」として需要が増えています。

1株から複数の芽が立ち、株が大きくなるほど芽の数が増え、切り花の本数も増えます。苗を定植した1年目は収穫せず株を養成します。2年目から収穫が始まり、定植して5年目(4作)まで植え替えせずに収穫ができる省力的な品目です。

草丈は1mほどになりますが、仏花用として切り花長60cm程度に茎を短くし、1株あたり多く収穫できる栽培方法を勧めています。

栽培には、有機質に富み、粘質で保水力のあるpH5.0～6.0程度の酸性土壌(=元水田)が適していることから、作業性が低い不整形な農地等の活用に向け、リンドウ栽培を推進しています。

売上額の試算では、1aあたり、栽培2年目で100,000円、3～5年目は200,000円程度が見込めます。

リンドウに関心を持たれた方は、ぜひ当課までご連絡ください。



関西茶品評会で甲賀産茶が続々上位入賞！

関西茶品評会の審査会が8月3～5日に甲賀市で開催され、「普通煎茶」の部で甲賀市の洞重則氏が、「かぶせ茶」の部で同市の片木享央氏がそれぞれ1等1席の農林水産大臣賞を獲得されました。

また、各市町の上位3点で競われる産地賞も「普通煎茶」の部、「かぶせ茶」の部とも甲賀市が堂々の第1位となるなど、甲賀産茶のレベルの高さを内外に示す結果となりました。

農林水産大臣賞を受賞された農家からは、「皆様のおかげで念願がかないました。」との喜びの声が聞かれました。またこれまでの手摘みに加え、今回から新たな取り組みとして、機械摘みによる出品を行いました。その結果、機械摘みによる出品でも上位入賞できるなど、今後に向けて大変有意義な大会となりました。



茶の水色審査の様子

祝

「世界農業遺産」認定！
琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業
森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす琵琶湖システム



令和4年度 普及現地情報

番 号	発行日	タイトル
1	4月27日	ユーカー栽培研修会を開催
2	4月27日	農家自ら「濁水流出防止」を呼びかける
3	5月13日	なしの予備摘果研修会を開催！
4	5月17日	令和4年度近江の茶一番茶の生産開始！
5	5月31日	地域で取り組むリンドウ栽培始まる
6	6月10日	令和4年産加工業務用タマネギの出荷調整会議を開催
7	6月24日	土山小学校3年生が校内茶園の製茶に挑戦！
8	7月14日	いちじく栽培研修会を開催
9	7月14日	果樹の新規栽培者を募る研修会を開催
10	7月19日	土山小学校の3年生が茶工場を見学
11	7月29日	新規就農者、中輪ギク初出荷
12	7月29日	「忍葱(しのぶねぎ)」栽培研修会を開催
13	8月8日	イチゴ共同販売意見交換会を開催
14	8月22日	第74回関西茶品評会で本県産茶がせん茶とかぶせ茶で1位を獲得!!
15	9月1日	なしの収穫研修会を開催
16	9月5日	普及指導員の資質向上に向けた研修会を開催
17	9月5日	イチゴ栽培研修会を開催！
18	9月9日	茶生産青年の「お茶を鑑る」力を競う！
19	9月12日	花き新規生産者発掘のための説明会を開催
20	9月30日	甲賀地域青年農業者プロジェクト活動中間検討会を開催！
21	10月24日	高校生が地元の先進農業者の経営や生産技術について学ぶ
22	10月31日	日野町西大路小学校3、4年生が甲賀で茶の体験学習！
23	11月2日	稲WCSの刈り取りが最盛期を迎えました
24	11月2日	全国優良経営体表彰6次産業化部門で農林水産大臣賞を受賞！
25	11月9日	ユーカー出荷研修会を開催
26	11月18日	獣害被害の防止に向けて集落環境点検を実施！
27	12月6日	令和5年産契約タマネギ栽培研修会を開催
28	12月13日	甲賀地域青年農業者プロジェクト活動事前検討会を開催！
29	12月13日	土山町茶業後継者が日本茶発祥の地「日吉大社」でPR活動
30	12月28日	なしのせん定研修会を開催！
31	1月24日	高校生が地元就農青年と交流！農業という職業について学ぶ！
32	1月26日	イチゴ新品种「みおしずく」視察研修を開催！
33	1月31日	イチゴの共同出荷が始まりました！

(1月末現在)

令和4年度普及活動実績集
だから好きですがんばる甲賀の農業
2023年（令和5年）3月 発行

滋賀県甲賀農業農村振興事務所農産普及課
甲賀農業普及指導センター
〒528-8511
滋賀県甲賀市水口町水口6200番地
<http://www.pref.shiga.lg.jp/minakuchi-pbo/nogyo/>
E-mail : ga30@pref.shiga.lg.jp

★甲賀地域の農業・農村関連情報を発信しています！

名称は「アグリウィンド こうか」です。

「アグリウィンド こうか」では、甲賀地域の農業・農村風景や農業・農村に関するタイムリーな地域の関連情報を掲載しています。

SNSを通して、甲賀地域の農業を身近に感じていただけるよう情報を発信していきます。



Facebook



Instagram



この印刷物は、グリーン購入法適合用紙を使用しています。